

第4回 プラズマ医療・健康産業シンポジウム、 第13回 (公社) 応用物理学会・プラズマエレクトロニクス 分科会・新領域研究会、 文部科学省・新学術領域研究「プラズマ医療科学の創成」 東京拠点会議

合同開催

日時 2012年12月21日(金) 13:00～18:00

場所 (独) 産業技術総合研究所・臨海副都心センター 別館 11階
〒135-0064 東京都江東区青海2丁目4番7号 ゆりかもめ・テレコムセンター駅前
TEL: 03-3599-8001

主催 プラズマ医療・健康産業フォーラム
独立行政法人 産業技術総合研究所
(公社) 応用物理学会・プラズマエレクトロニクス分科会

定員 80名程度

参加費 無料

協賛 国立大学法人大阪大学、国立大学法人名古屋大学、(社) プラズマ・核融合学会、(社) 電気学会、
バイオテクノロジー開発技術研究組合

経済産業省・国際標準化推進事業委託費(戦略的国際標準化加速事業(国際標準共同研究開発事業: 医療用
プラズマ装置等に関する国際標準化フィジビリティスタディ)、経済産業省・戦略的技術開発委託費
(医療機器等の開発・実用化促進のためのガイドライン策定事業: プラズマ応用技術分野(プラズマ処置機器)
開発ワーキンググループ)

今後の医療機器産業の競争力強化には、半導体等の超微細加工技術や、安価で信頼性の高い大量生産技術を、医用部材加工や診断・治療機器生産の共通基盤技術として展開するとともに、使い捨て消費を原則とする医療活動を環境にも配慮した形態への変換が必要であろうと考えられる。そこで我々は、大学、医療機関、製造メーカー、政府機関の有志が集まる場としてプラズマ医療・健康産業フォーラムを立ち上げ、環境調和型医療の実現に向けた研究開発体制の構築を進めている。

第3回シンポジウムでは、医療機器開発の動向と医工連携の状況を明確化し、今後の課題と方向性を議論した。更に、検査・診断技術の現状を通して、日本が優位性を保持してきた技術の更なる可能性を議論した。第13回応用物理学会・プラズマエレクトロニクス分科会・新領域研究会、及び第4回シンポジウムでは、日本の医療機器産業政策、国際標準化政策に関する事業紹介のほか、日本の医療機器開発の動向と実用化戦略、及び米国における実用化事例を紹介いただく予定である。これらをたたき台に、医工連携研究開発のプラットフォームや、具体的な医療イノベーションとその戦略のあり方を議論し、プラズマ医療・健康産業フォーラムとして、関連のメッセージを社会へ発信できれば幸いに思う。中でも今回は、低侵襲治療推進に向けた技術開発への期待と、プラズマ医療の科学的な側面について、各界の専門家と今後の可能性をより深く議論できればと考えている。

プログラム

13:00-13:10「開催にあたって」
プラズマ医療・健康産業フォーラム 事務局
司会 産総研 研究チーム長 池原 謙

13:10-13:40「経済産業省の医療機器産業政策について」
経済産業省 商務情報政策局 ヘルスケア産業課 医療・福祉機器産業室
室長 覚道 崇文

13:40-14:20「イノベーションを求め続けて60年」
SRI インターナショナル日本支社・ライフサイエンス部門
部長 染原 俊朗

休憩 14:20-14:35

司会 大阪大学 教授 浜口 智志

14:35-15:05「事業戦略と国際標準化」
経済産業省 産業技術環境局 環境生活標準化推進室
室長 坂元 耕三

15:05-15:35
「医療イノベーション実現のための糖鎖およびバイオイメージング技術の研究開発」
産業技術総合研究所・糖鎖医学研究センター
研究チーム長 池原 謙

15:35-16:00「医療用途のプラズマ装置に関する国際標準化活動」
産業技術総合研究所・エネルギー技術研究部門
研究グループ長 榊田 創

休憩 16:00-16:15

司会 産総研 研究グループ長 榊田 創

16:15-16:45「半導体技術者から見たプラズマの医療応用」
東京エレクトロン株式会社 コーポレート開発部門 フェロー 有門 経敏

16:45-17:20「プラズマ医療科学の推進」
国立大学法人 名古屋大学大学院 工学研究科・プラズマナノ工学研究センター長
教授 堀 勝

17:20-17:30「閉会」
17:30- 名刺交換会(希望者)

問い合わせ・申込先

独立行政法人 産業技術総合研究所内シンポジウム事務局

TEL: 029-861-2742 FAX: 029-861-3252

E-mail: plasma-med-ml@aist.go.jp

URL: http://unit.aist.go.jp/rcmg/rcmg-ga/ci/99_blank001034.html

アクセス

